

日本史研究推進委員会

共同研究

「神奈川における交易・交流」 モノを活用した日本史教材」経過報告

川崎高校 白川重敏

日本史研究推進委員会の一六年度の研究活動は、二年目となる共同研究テーマ「神奈川における交易・交流―神奈川をめぐるモノを活用した日本史教材―」に基づいて実施した。この研究活動の根本には、地域にある史料を使って、それをどのように教材化し、授業に生かすことが出来るかを研究課題としている。この共同研究テーマのもとに毎月一回、八月と二月を除いて、推進委員の勤務校や県内施設を使って月例会を開き、各委員がレポートを持ち寄り、その成果を秋と春の研究発表会で発表してきた。また恒例となった世界史研究推進委員会との合同研究会も実施し、パワーポイントを使いながらグローバルな視点からの活発な討議がなされ、相互に刺激があつて密度の濃い研究会となった。七月二十九日には全歴研群馬大会に日本史の方からは新谷桂（港南台高校）が参加し、他県の参加者の前で自作のデジタル教材を使った水準の高い発表を披露した。八月には恒例となった夏季巡検も実施された。一六年度の活動は以下の通りである。

【月例会】

一六年度は次の会場で月例会を実施した。四月（県歴博）・五月（港南台）・六月（横浜開港資料館）・七月（川崎・日世合同）・九月（県歴博）・一〇月（茅ヶ崎）・十一月（県公文書館）・十二月

（県歴博）・一月（上鶴間）・三月（七里ガ浜）

【研究発表】

一六年度は次の発表が行われた。

○秋季研究大会（一〇月二〇日）かながわ県民センター

「灯台」の教材化を考える

―近代化遺産「観音崎灯台」を中心に―

児玉 祥一（上鶴間高校）

「名主日記に見る幕末の社会情勢」 岩崎 孝和（元石川高校）

○春季研究発表会（三月八日）かながわ県民センター

「江戸時代の結婚と離縁」 川島 敏郎（七里ガ浜高校）

「横須賀水道道」 矢野 慎一（六ツ川高校）

○全国歴史教育研究協議会群馬大会（七月二八日）

（群馬県伊香保温泉「ホテル天坊」）

「横浜港と貿易の発展―教材のデジタル化とその授業実践―」

新谷 桂（港南台高校）

【夏季巡検】

今年度は八月二七日に実施した。今回は大山・伊勢原方面を川島敏郎（七里ガ浜高校）の案内で巡検した。当日は太田道灌首塚・大慈寺・普濟寺の多宝塔・高部屋神社・丸山城跡・上行寺・太田道灌胴塚など見学の後、大山公民館で大山寺の解説を受け、公民館職員のカイドで大山寺まで行き、詳細に解説してもらった。次年度も魅力ある巡検を企画する予定である。最後になったが、月例会の会場をご提供していただいた各高等学校、横浜開港資料館・県立歴史博物館・公文書館に感謝申し上げますとともに、今後ともご理解・ご協力をお願いする次第である。